

氏名	水 本 大 介
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3815号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Electrophysiological assessment of the carpal tunnel syndrome in haemodialysis: a formula for prediction of the surgical results (透析患者の手根管症候群に対する電気生理学的評価: 手術成績の予測のための計算式)
論文審査委員	教授 梶野 博史 教授 松井 秀樹 教授 森田 潔

学位論文内容の要旨

本研究は透析患者の手根管症候群(CTS)に対する手術治療成績を予測するための計算式を電気生理学的検査から見出そうとするものである。

透析患者および糖尿病患者113名204手の正中神経の遠位潜時(DML)および前腕での運動神経伝導速度(MCV)をそれぞれ測定して結果を統計解析した。

糖尿病のない長期透析患者群(27名)では知覚障害のある33手のDML値が前腕のMCV値の低下の程度と比較して著明に遅延する傾向が認められたが、糖尿病性腎症から透析にいたった患者群(20名)では知覚障害のある22手のDML値が透析期間が短いにもかかわらず遅延する傾向が見られ、前腕のMCV値は有意に低下していた。

次にDML値およびMCV値の回帰分析から透析患者のCTSに対する手術治療成績を予測するための計算式を導き出し、 $MCV(m/s) > 11(9-DML(ms))$ であれば手術成績は良好と予測されたとした。実際の手術症例の術後臨床成績を用いてこの式を検証し、感度0.82、特異度1.00という結果を得た。

上記計算式は特に糖尿病性腎症から透析にいたった患者のCTSの手術治療成績を予測するものとして有用である。

論文審査結果の要旨

本研究は透析患者の手根管症候群(CTS)に対する手術治療成績を予測するための計算式を電気生理学的検査から見出すために透析患者および糖尿病患者113名204手の正中神経の遠位潜時(DML)および前腕での運動神経伝導速度(MCV)をそれぞれ測定して結果を手術成績と統計解析したものであるが、 $MCV (m/s) > 11 (9 - DML (ms))$ であれば手術成績は良好と予測され、この計算式の感度は0.84、特異度は1.00であった。本研究は透析患者のCTSの手術治療成績を予測するための電気生理学的評価法による計算式を見出したもので価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。